



日本のGGGI 105位のおかげで 世界一長寿の日本女性

黒崎 伸子
女性医療ネットワーク理事
国境なき医師団日本会長

「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」シャイン・ウィークス公式サイドイベント

『105位からの挑戦』 2014年9月16日



国際男女格差レポート

□総合的指数の差

1位0.9796/アイスランド⇒136位0.5128/イメン 日本0.6498

● 経済への参加と機会: 給与, 参加レベル, 専門職の雇用

1位0.8357/ノルウェー⇒136位0.2508/シリア-日本0.5841/104位

● 教育: 初等教育や高等・専門教育への就学

1位1.0/25カ国⇒136位0.512/ベナン-日本0.9757/91位

● 政治への関与: 政策決定機関への参画

1位0.7544/アイスランド⇒135位0.000/カタル・ブルネイ-日本0.0603/118位

● **健康と生存: 寿命と男女比**

1位0.9796/33カ国⇒136位0.9254/カメルーン-日本0.9791/34位

* 健康では国家間の差は非常に少ない

2

健康に関する指数

・ 出生時の男女比

Sex ratio at birth/converted to female-over-male ratio, by CIA: Central Intelligence Agency, The CIA World Factbook, data updated weekly, 2013

* missing womenの実態把握が目的

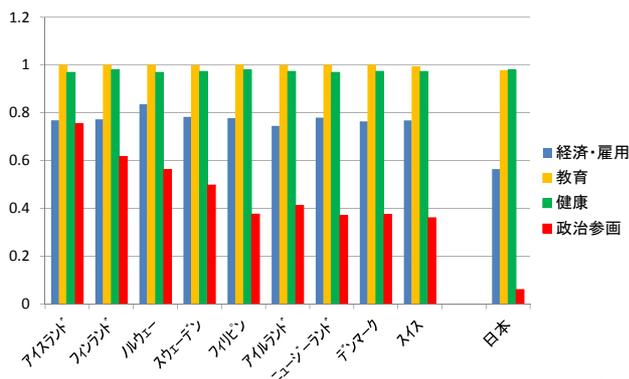
・ 平均余命の男女比

Ratio: female healthy life expectancy over male value, by WHO: World Health Organization, Global Health Observatory database, data from 2007

* 暴力、疾病、低栄養その他の要因の影響を把握

3

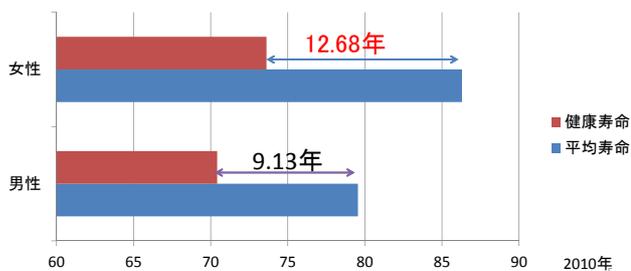
GGGI トップ10と日本の比較



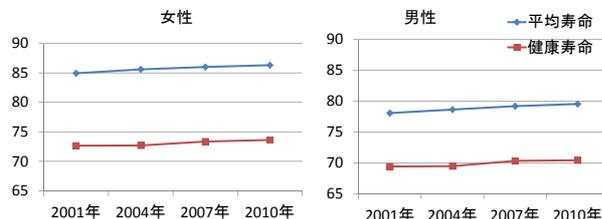
4

平均寿命と健康寿命

- 日本人女性の出生時平均余命は86.61歳(世界1位)で、男性は80.21歳(世界4位)。2013
- ただし、健康寿命は? ⇒女性は不健康で男性より3.5年以上長く生きている/生かされている



平均寿命と健康寿命の格差!



日本政府は、健康日本21(第2次)などで、平均寿命の延伸に伴う健康寿命との格差の拡大を阻止を図っている。

しかし、105位からの挑戦には、女性の人生全体を見据えた健康支援をすることが重要。

6

『女性の健康の包括的支援に関する法案』

- 女性医療ネットワークの主導で各種専門家とともに法案成立をめざして勉強会開催やロビー活動。
- 寿命が長いというだけで、日本の女性たちは決して、十分に健康的な生活を送っている訳ではない。
- 女性の一生における選択肢の多様化に合わせた生活・健康の質にも焦点を当てる必要がある。
- 光が当たらなかった女性を取り巻く健康問題。これまでの医療・保健・福祉のすきまをなくす、包括的支援の実現をめざしている。

法案制定をめざした社会的背景 1 -働く女性の視点-

- 雇用機会均等法(1986制定)第1世代が**更年期**に入ったことによって、新たな政策転換のニーズが出現。
- 少子高齢化による労働人口減少から、女性の活躍なくして、社会の発展・安定はあり得ない現状。
- 「男女が公平に働くことができる」という段階から、「女性の活躍を企業業績向上に結びつける」という段階にステップアップした。
- 女性健康支援についても、「病気を治す・予防する」といった段階から、「**女性が健康であるほど、その能力が十分に発揮でき、個人も会社も社会も輝く**」段階にステップアップさせることが重要。

女性の活躍を成長戦略に結びつけるために…

女性のキャリア形成における、健康支援と人材育成機能との有機的連携の必要性

- 育児・介護期の多様な働き方に対応した人事制度
- 更年期への保険制度の拡充化。
- 男性優位的な企業の配置転換・異動や評価等の育成策から、男女ともにキャリア形成可能な人事諸施策・制度への転換。

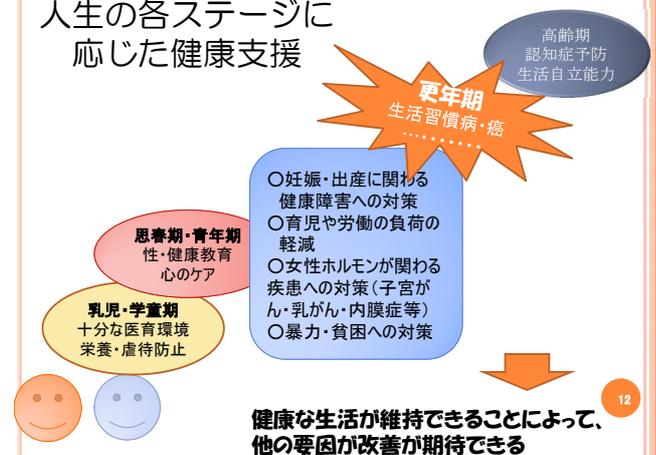
法案制定をめざした社会的背景 2 -MINORITYの視点-

- 現在の女性の健康に関連する施策は、母子保健、女性のがん対策など、**断片的**。
- 女性の健康問題は、女性が置かれている**地域社会の中での摩擦**や、**貧困・暴力**などの**社会的要因**によって引き起こされていることが多く、これまでの医療・保健・福祉の縦割りの仕組みでは解決できない。
- 子どもたちに起こっている問題(若年妊娠、性感染症、リストカット、依存症、摂食障害、いじめ、不登校・引きこもり、身体表現性障害など)も、女性に対する暴力や**貧困**に起因することが多い。

望まれる法的支援

- 病気を見つけて治す、という従来の医療の概念では、女性に対する暴力や貧困を含めた、女性の健康問題は解決できない。
- 病気は病院、子どもは学校、貧困は福祉などと個別の問題として対応することで、根本的な解決にならない。
- 女性の健康問題を包括的にとらえ、必要なヘルスケアや支援を一元化して行うことにより、根本的な問題の解決が図れるよう、基本法の制定をめざす。

人生の各ステージに 応じた健康支援



グローバルな視点での女性の健康

- GGGI統計で取り扱っている健康指標では、国による格差は減少している。遅れているのはアフリカ/サハラ以南の国々
- 特に、2015年までに国際社会が開発分野において達成すべきとした8つの指標(MDGs)における改善の貢献は大きい。(貧困・飢餓の撲滅、マラリア・結核による死亡の減少、安全な飲料水確保など)
- 積み残されたのは、5歳未満児死亡率や妊産婦死亡率の課題、よりよい衛生施設へのアクセスなどの問題である。
- ポスト2015開発アジェンダとしては、国・地域レベルの取り組みに、**人間の安全保障**の視点がさらに重要となる。

* **人間の安全保障**: 人間一人ひとりに着目し、人々が恐怖や欠乏から逸れ、尊厳をもって生きることができるように、個人の保護と能力強化を通じて、国・社会づくりを進めるという考え方

13

生活の質の基盤となる健康のために

- 女性の人生において、女性ホルモンの変化による健康への影響を無視する事はできない。性差医療の視点にたった対応が必要。そのうえで、女性が多様な選択肢の中で輝く人生を生き抜いていけることこそが、真の健康指数である。
- すでに、GGGIの健康指数では1.0に近いとはいえ、この分野は、他の要因に大いに影響する問題である。
- 国際社会においては、超高齢化社会に突入した日本の施策は、世界をリードできるモデルとなる。
- 『女性の健康の包括的支援に関する法案』

http://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_gian.nsf/html/gian/honbun/houan/g18602027.htm

14